



豊中市教育センター

〒560-0033 豊中市蛸池中町 3-2-1-600

TEL 06-6844-5290

FAX 06-6840-8127

平成 21 年(2009 年)5 月 22 日第 37 号

## クリスマス・レクチャー

1791 年 9 月 22 日、英国のロンドン近郊のニューイングトンのある鍛冶屋に一人の子どもが生まれました。一家の暮らしは貧しく、その子は小学校に通ったのち、製本屋の見習いとして働き始めます。

勤めた先が製本屋だったのは、少年にとってとても幸運でした。貧しかったその少年にとっては、自分で本を買うことはとても大変だったのですが、製本屋で働いていることで数多くの本に接することが出来たのです。その中でも、少年にとってもっとも興味があったものは科学の本でした。

少年は忙しい仕事の合間を見つけては、自分が読んだ本の科学知識をまとめてノートを作っていました。そのことを知った店の客が、ある講演会のチケットをプレゼントしてくれました。そのチケットは当時の大科学者、デイビーの講演会のものでした。この講演会を見た少年は、とても感動し、科学の道を歩もうと決意したそうです。

この少年こそ、電気の父として有名なマイケル・ファラデーです。

ファラデーは、電気の分野に限らず、化学、物理の分野で多くの功績を残していますが、その功績以上に大きな影響を残していることは、自分自身の経験から講演をととても大事にし、子どもたちにプレゼントしたことです。

ファラデーが始めたクリスマスに子どもたちを対象に行った科学講座(クリスマス・レクチャー)は、180年以上もの長きにわたり開催されています。英国の多くの子どもたちは、ここで一流の科学者からの講義を受けてきました。その中から後に科学者になってレクチャーの活動として、子どもたちに感動のバトンをつないだ人もいます。

ファラデーが行ったクリスマス・レクチャーは、「ローソクの科学」として文庫本にもまとめられており、今でも多くの子どもたちに親しまれています。

180年前の王立研究所の講堂には満員の聴衆が集まっていた。登場したファラデーは、おもむろにマントの中から、一本のローソクを取りだし、「みなさん、このローソクについてのお話をしましょう。このローソクのことを語ることで、この宇宙で起きている様々なことがわかるのです……」と語りだし、子どもたちは目をきらきら輝かせて聞いていました。

昨年末のクリスマス・レクチャーは「冒険！コンピュータの世界へ！」をテーマにイギリスで繰り広げられました。そのレクチャーが、7月30日、31日、豊中市立市民会館の大ホールにて再現されます。

ときどきしながら、科学の感動を味わいたいと思っています。(十河)





平成19年(2007年)12月、国連総会において、平成20年度(2008年度)以降、毎年4月2日を「世界自閉症啓発デー」とする決議が採択されました。また4月2日からの1週間を「発達障害啓発週間」と定め、発達障害や自閉症のある人たちについて、多くの方々に広く知っていただく機会とすることになりました。

世界自閉症啓発デー・日本実行委員会委員長であり、日本自閉症協会の石井哲夫会長が啓発リーフレットの中で次のように述べられています。

応援してください ~自閉症の人が暮らしやすい社会へ~

同じ時代に生まれ、共に社会で安心して暮らしていくということは、誰もが大切にしていかなければならないことだと思います。

皆が同じように育つわけではなく、その違いを理解しあい、うまく人に接することができない人を周囲の人が包み込み、理解して行ってほしいと思います。

自閉症の人にみられる変わった言動を、最初から嫌な気持ちで見ないでください。優しい注意やなだめで落ち着くことが出来ると、他人の好意も分かってくるのです。また周囲の人が、その「悪い点」だけでなく、「良い点」を認めるようにしてくれることで、自閉症の人が社会で生きていく自信ができ、生活を豊かにすることになっていきます。この社会に自閉症の人への理解者や代弁者が一人でも増え、真のインクルージョン(共に社会で暮らす)が実現されることを願っています。

様々な障害について理解がよりいっそう深まるよう、情報発信していきたいと思っています。

教育センターとしましても、様々な障害のある子ども一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な支援が図られるよう学校園とともに考えていきたいと思っています。よろしく願いいたします。

関連HPの紹介

- 文部科学省(報道発表) 文部科学大臣メッセージ  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/21/04/1258932.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/21/04/1258932.htm)
- 世界自閉症啓発デー・日本実行委員会  
<http://www.worldautismawarenessday.jp/htdocs/>
- 発達障害教育情報センター(国立特別支援教育総合研究所)  
<http://icedd.nise.go.jp/blog/>
- 社団法人日本自閉症協会 <http://www.autism.or.jp/>
- 日本発達障害ネットワーク <http://jddnet.jp/>

研修の充実をめざします!

本年度も若手教員の育成を中心に、それぞれのステージに応じた研修を用意しております。

多数のご参加、お待ちしております。

ニューステージ研修 I

▼ 6月26日(金) 14:30~

『子どもが育つ!』

教育環境のつくりかた』

奈良教育大学 教授 豊田 弘司

※5月22日の研修は中止となりました。ニューステージ研修Ⅱ・Ⅲと10年経験者研修の市実施(第1回)の開講式については、改めてご案内いたします。

研究協力員 追加募集中!

追加の募集を受け付けております。この制度の目的は、先生方の教育実践力の向上を図ることにあります。

先生方が日々の授業に活用できるような教材の開発や授業方法等について、いっしょに研究してみませんか?!

報告会は来年1月6日(水)に教育センターにて実施予定です。先生方のご参加お待ちしております。

授業づくりならセンターへ!

教育センター6階ロビーでは、教育図書を置いており、閲覧が可能です。また、貸出も行ってありますので、普段の授業づくり、参観・研究授業等の準備にご活用いただけます。

一度、お越しく下さい!





# 情報科学教育係

「英国科学実験講座（クリスマスレクチャー2009）」を開催します。

「クリスマス・レクチャー」とは、毎年クリスマスの時期にイギリスで開催されており、子どもたちに贈るクリスマス・プレゼントとして始めた科学の実験講座です。一流の科学者が実験の演示をし、子どもたちを実験に参加させることにより、あらゆる方法で「科学の面白さ」を伝えようとする取り組みです。

この取り組みを豊中で再現し、「英国科学実験講座」として開催いたします。私たちの社会に欠かすことのできない「コンピュータ」。英国の著名な科学者であるクリストファー・ビショップ教授がコンピュータのもつ人工知能の働きや、それがどのように私たちの暮らしに役立っているかを紹介します。コンピュータがもつ無限の可能性とは？人工知能によって未来はどう変わるのか？等、機械の中で起こっている世界が、教授によってわかりやすいショーのように紹介され、わくわくする最先端の科学の世界へ参加者を誘っていただきます。

▼と き＝7月30日（木）・31日（金） 両日とも11時～  
13時30分～

▼ところ＝豊中市立市民会館大ホール

《『英国科学実験講座』のイベントⅠ》

## 夢わくわく科学実験講座

### ーファラデーに学ぶー

「電気の父」と呼ばれるファラデーの時代にタイムスリップして、彼が解き明かした電磁気のなぞや水の電気分解などの実験を再現します。

▼と き＝6月20日（土）14時～16時

▼ところ＝豊中市立大池小学校体育館

▼講 師＝東京工業大学大学院 市村禎二郎教授

《『英国科学実験講座』のイベントⅡ》

## English Classes for Christmas Lectures

ークリスマスレクチャーを英語でー  
（コンピュータ英語講座：中学生対象）  
コンピュータを題材にした授業。英単語やフレーズをゲーム等を通して学びます。

▼と き＝6月21日（日）11時～・13時～  
14時30分～

▼ところ＝豊中市教育センター

## 教育相談事例集の完成！

## 「気になる子どもへの支援のヒントー相談事例集ー」

### 気になる子どもへの 支援のヒント

ー相談事例集ー



平成21年（2009年）3月  
大抵教育相談研究会 西宮編成部発行

「気持ちの切り替えが難しい子」「乱暴に見える子」など学級の中で気になる子どもの様子を18事例示しています。子ども理解や誉め方・ソーシャルスキルのポイントなど、学習場面・生活場面での子どもの関わり方や、有効な手立てとなる支援をわかりやすく記してあります。各校園にお配りしていますので、ぜひご活用ください。

8月6日には、「学級の中で一人ひとりをいかす・支える」というテーマで、この事例集を活用しての教育相談研修（第4回）も行います。学級のあの子・子を思い浮かべながら、充実した研修になることと思います。

### 教育相談研修の充実

今年度は、子ども理解や子どもへのかかわり方の他、研修会のアンケート希望が多かった、保護者とのかかわり方についての研修も計画しています。多くの先生方の参加お待ちしております。

6/4 講義「学級の中でいかせる人間関係づくり」構成的グループエンカウンター入門 相談員

7/22 講義「こうすればつながれる」～保護者理解とその対応～ 臨床心理士 井上序子先生

※インフルエンザ対策のため、5/19の研修は中止いたしました。次回以降は、計画どおり実施を予定しておりますので、ご参加よろしくお願いたします。

# 教育相談係



## 「自分」なんか大嫌い

状況把握が苦手な A さんは、幼稚園で次に何が起こるのかわからなくて不安がいっぱいです。いつもと状況が全く違うお泊まり保育の後に、とうとうダウンしてしまいました。幼稚園に行くのが怖くてお母さんと離れられません。行けた日も、場面かまわず奇声をあげてしまいます。何を問うても奇声が返ってくるばかりで、会話もほとんど成り立たなくなっていました。お母さんも先生も、A さんが何をどこまで理解できているのかわからなくなり、途方に暮れてしまいました。

もともと絵を描くのは大好きな A さんでしたが、その頃から自分の顔をおさなりに描くようになってしまいました。おかしいと感じたお母さんは試しに「お母さんの顔、描いてみて？」と頼むと、ていねいに愛情たっぷりに描いてくれるのです。「どうやら自分のことが嫌みたいなんです……。」

A さんの不安を少しでも軽くするために、お母さんと先生と一緒に何ができるかを話し合いました。そして、絵や文字を使って、状況を見てわかるようにしたり、行事をしばらく回避したりと、基本的な園生活が理解できるような工夫が始まりました。

不安が著しい数週間は、お母さんも一緒に登園されました。次第に奇声が減り会話が増えて来た頃、つきそいに疲れたお母さんに A さんは「A が怖いからお母さん一緒に来てくれて疲れてる…ごめんね…A がダメでごめんね。でも、まだ怖いから、ごめんね」とお話しされたそうです。お母さんは「ああ、この子はこんなにもわかってるんだ。こんなにも感じてるんだ。それでも本当に助けを必要としているんだ……」と泣けてきたそうです。A さんの気持ちが伝わると、お母さんの A さんを支えたい気持ちは自然と強まり、それと呼応するように A さんの表情は、日に日に生き生きとよみがえりました。それから間もなくして、A さんは一人で登園できるようになり、先生の助けのみで発表会などの行事へも参加もできるようになりました。

「ちゃんとできない自分なんて大嫌い！」「お母さんを悲しませる自分なんて大嫌い！」子どもたちの、言葉にならない、けなげな叫びが聞こえてきます。親子の涙が素敵な笑顔に変わるまで、ともにありたいと思っています。(松波)

